昭和19年7月10日竣工の厩舎
大学に現存する最古の施設

国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学の取り組み

令和６年８月 発行

帯広畜産大学長
長澤　秀行

今から83年前の昭和16年に我が国初となる官立の高等獣医学校として設立された本学の象徴的な建物が表紙にある厩舎です。この度、馬の取り組みを特色とする本学に、新厩舎が完成しました（後掲）。

本学の西には日高山脈、北には大雪山系があり、それらの裾野は十勝川に沿って太平洋沿岸まで広がり十勝平野を形成しています。今年６月に、35か所目の国立公園として国内最大の「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生しました。

北海道を代表する自然豊かな十勝地域は、年間60件を超えて、映画、コマーシャル、テレビ番組等のロケ地となっています。キャンパス内でも、宮沢りえさんと西島秀俊さんが出演したテレビコマーシャル、ラグビー場の西側では、「なつぞら」の山田天陽（吉沢亮さん）が倒れるシーンの他、たびたびテレビ番組の取材があります。

厩舎では、「北の国から ‘92巣立ち」で、学生役の和久井勇次（緒方直人さん）に会いに黒板蛍（中嶋朋子さん）が訪れるシーン、「銀の匙」では、八軒（中島健人さん）とアキ（広瀬アリスさん）が馬術部で活動するシーンが撮影されました。

この自然環境と大陸的な気候は、同時に、十勝の基幹産業である畑作、畜産、酪農にも大きく寄与し、農業算出額は北海道全体の４分の１、食料自給率は1200%を誇ります。これらの環境は、実学を重視する本学の教育研究を進める上で、大きな強みとなっています。

十勝に位置する本学のミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、くらしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること」です。本学は、北海道国立大学機構の一員として、農商工連携による教育研究を推進し、社会が必要とする農学系グローバル人材を育成します。

馬産業を支える人材育成の推進

【新厩舎が完成】

本学は、日本の馬産業を支える専門的知識や高度な技術力を持ち日本の馬産業を支える人材を継続的に輩出するために、馬生産育成教育施設の整備を行っています。

令和５年度末には、その整備の一環として「新厩舎」と「繋留場」が完成し、令和６年８月７日にノーザンファーム、地方競馬全国協会、日本中央競馬会等の関係者をお招きして完成披露記念式典を挙行しました。

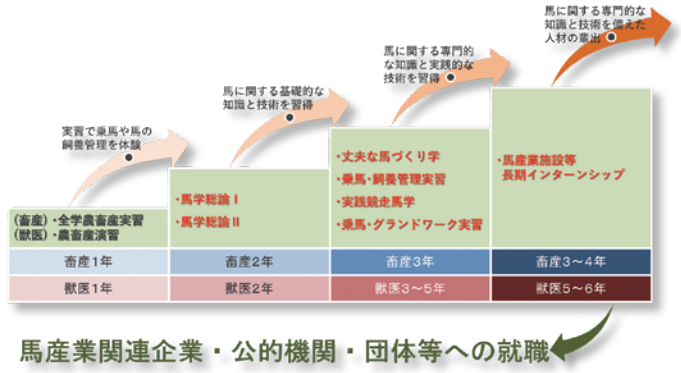
今後は「覆馬場」等の施設整備が予定されています。

▲新たに完成した厩舎

【総合ウマ科学教育プログラムの開始】

令和６年度から、馬に関心を持ち、将来的に馬産業に関わっていきたいという希望を持つ学生のために、「総合ウマ科学教育プログラム」を開設しました。

本プログラムは、基礎レベル（馬への関心を高めるとともに馬に関する基礎的な知識を修得）、応用レベル（馬に関するより専門的な知識と技術を修得）、専門家育成レベル（馬に関する実践的な知識と技術を身につけて馬関連産業界への就職を目指す人材を育成）で構成されています。



畜産フィールド科学センター 乳製品製造工場が完成

畜産フィールド科学センターは建設後48年を経過し、建物基本性能の低下や老朽化が著しく進行しているため、センター全体の段階的な再開発により、施設群の集約化を行うことで、安全で機能的な教育研究施設に改築する事業を進めています。

これまでに「牛舎」「搾乳舎」が完成し、令和６年３月には新たに「乳製品製造工場」が完成しました。現在本稼働へ向けて、機械設備の導入など準備が進められています。

▲新たに完成した乳製品製造工場

高度人材共創センターによる社会人教育の推進

高度人材共創センターは、産業界や地域社会と連携して獣医農畜産分野の先進的な社会人教育プログラムを開発･実施することにより、高度専門職業人の養成と農業を基盤とする産業振興並びに地域社会の持続的発展に貢献することを目的としています。

【農畜産プロフェッショナル経営人材育成プログラム】

令和５年９月から開講した本プログラムは、地域農畜産業並びに我が国の農畜産業をけん引する経営人材育成のため、「農畜産業経営を成長産業とする高度な実務的知識と実践力の習得」と「DXによる農畜産業経営の変革に主導的役割を果たしうる総合知の涵養」を人材育成の目的とした、本学初となる履修証明プログラムです。

令和５年度は29名の方が履修証明書を授与されました。

▲履修証明書を授与される受講生

ミルク＆チーズコンソーシアムの設置

令和６年６月14日に、酪農産業の持続可能な発展に貢献することを目的として、「ミルク＆チーズコンソーシアム」を設置しました。このコンソーシアムは、生乳生産を支える乳・乳製品の消費構造の変革を促進し、産学連携による国内トップレベルの乳・乳製品の拠点を形成することを目指します。
また、本コンソーシアムでは、産学連携・交流の場として、酪農産業・乳業における様々な立場の方々が連携し、議論を深めることで、乳・乳製品製造に関する教育と産業界のニーズ収集や課題解決に向けた研究を推進します。

（参画機関）
帯広畜産大学、農事組合法人共働学舎新得農場、（一社）Jミルク、（株）白糠酪恵舎、（公財）とかち財団、十勝品質の会、（株）美瑛ファーム、（有）藤井牧場、（株）明治、森永乳業（株）、雪印メグミルク（株）、よつ葉乳業（株）

橋本総業HD社への感謝状贈呈 ～学生寄宿舎に冷房設備を設置～

令和６年５月７日に、橋本総業ホールディングス株式会社より学生寄宿舎に冷房設備が寄贈され、代表取締役社長の橋本政昭様に感謝状を贈呈しました。学生寄宿舎の寮生を代表して寮長の川口永遠さん、副寮長の古賀郁さんから感謝の言葉を伝えるとともに、「学生による酒造りプロジェクト」で造られた日本酒が贈られました。
なお、冷房設備は男女各階の共有スペースに設置されています。

▲学生と橋本社長

歌人 時田則雄氏への感謝状贈呈

令和５年12月13日に、歌人時田則雄氏より本学に自身の著書全24冊が寄贈され、長澤学長から感謝状を贈呈しました。時田氏は、別科（草地畜産専修）の同窓生であり、修了後に就農され、農業を営みつつ文筆活動にも取り組まれ、これまで角川短歌賞、読売文学賞や芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞されました。寄贈された著書は学生を含め一般利用者にも貸し出しを行っています。

▲長澤学長と時田氏

令和５年度災害復興支援コンサート ～帯広・十勝に花は咲く～ を開催

令和６年３月31日に講堂にて「令和５年度災害復興支援コンサート ～帯広・十勝に花は咲く～ 」を7年ぶりに開催し、345名の方にご来場いただきました。
コンサートには、学生サークルの帯広畜産大学ジャズ研究会と陸上自衛隊第５音楽隊がそれぞれ様々な曲を演奏し、最後には東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を会場全員で合唱しました。
来場者から258,123円の義援金が寄せられ、能登半島地震の復興支援のため日本赤十字社へ寄付しました。

▲来場者全員で「花は咲く」を歌唱

共同獣医学課程卒業生が英国獣医師免許を取得

令和５年３月に帯広畜産大学共同獣医学課程を卒業した篠崎夏歩さんが、令和６年５月に英国獣医師免許を取得しました。

通常、日本の獣医師免許取得者は、英国獣医師協会の獣医師資格認定試験を受験し、合格する必要があります。EAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の獣医学教育国際認証を取得した令和２年３月以降に共同獣医学課程を卒業した学生は、獣医師資格認定試験の受験が免除されます。篠崎さんはこの枠組みを活用した、本学で初めての資格取得者となりました。

日本から遠く離れた地での篠崎さんの活躍が期待されます。

▲篠崎さん（ロンドン大学衛生熱帯医学大学院前にて）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 ～生え抜きキャリアパス制度で特任助教２名を採用～

帯広畜産大学では女性教員を積極的に採用しており、令和５年度の新規採用教員15名中、８名が女性でした。また、女性教員８名のうち、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（女性リーダー育成型）の取り組みの一つである「生え抜きキャリアパス制度」を活用し、山根百合奈特任助教と宮崎直美特任助教の２名が採用されました。

「生え抜きキャリアパス制度」は、本学の博士課程修了者を特任助教として採用する制度で、「高い女子学生比率」「地域志向の学生の多さ」という本学の強みを生かした制度となっています。

なお、この制度により採用された特任助教には、３年間の共同研究費を支援し、教授・准教授を含む共同研究グループによる研究活動を通して、研究活動の素地形成をサポートします。また、共同研究グループの教授・准教授による授業・実習指導法の研修を実施します。

このほかにも、ワークライフバランス支援、育児に係る支援により、その後のキャリアアップを継続的にサポートする仕組みがあります。

▲繋留牛のブラッシングの欲求を調査する山根特任助教

▲小学校の「総合的な学習の時間」で講師を務める宮崎特任助教

GIVING CAMPAIGNに参加します

GIVING CAMPAIGNとは、オンラインで大学生を応援し、教育・研究・課外活動の支援の輪を広げるチャリティイベントです。イベントでは、応援したい学生団体への投票に加え、応援メッセージを届けたり、支援したい団体に寄付ができたりと様々な形で頑張る学生を応援することができます。また、実施期間中に獲得した「得票数」を参考に、協賛企業から学生団体へ活動資金が授与されます。

応援したい学生団体へ投票するだけで学生の支援に繋がります！！
帯広畜産大学は、公認サークル団体を中心として参加します。
応援をよろしくお願いいたします！

【実施期間】
令和6年**10**月**11**日（金）～**10**月**20**日（日）

国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
TEL：0155-49-5219　FAX：0155-49-5229
E-mail:kouhou@obihiro.ac.jp
https://www.obihiro.ac.jp/